



## 第4回 日本版NCAA作業部会

---

平成30年10月15日(月)

9:00～13:00

# 本日の作業部会の進め方

---

# 本日の作業部会の進め方(1/2)

「スポンサープログラム及び賛助制度(案)」「会員に関する規程(案)」に関する決議のほか、テーマ群ごとの進捗報告・質疑応答を予定しています

#	時間配分	累計時間	発表者		議題
	5分	—	スポーツ庁	事務局	• 本日の作業部会の進め方
	10分	15分	テーマ14	池田(敦)主査	• スポンサープログラム及び賛助制度(案)
	10分	25分	質疑応答(主査)・決議		
	5分	30分	テーマ15	木藤主査	• 日本版NCAA(仮称)の会員に関する規程(案)
	10分	40分	質疑応答(主査)・決議		
	5分	45分	テーマ15	木藤主査	• 日本版NCAA(仮称)への加盟に伴う将来要求事項(案)
	10分	55分	質疑応答(主査)		
学内整備	5分	60分	テーマ12	佐野主査	• 大学SA支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備
	5分	65分	テーマ2	小林(勝)主査	• 学習機会確保(案)
	5分	70分	テーマ3	友添主査	• 成績管理・対策、さらなる動機付け(案)
	5分	75分	テーマ6	三宅主査	• 共通ルールの設定(案)
	5分	80分	テーマ7	戸田主査	• ガバナンスの体制構築、ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築(案)
	25分	105分	質疑応答(前半10分:主査、後半15分:作業部会員)		
	10分	115分	休憩		

# 本日の作業部会の進め方(2/2)

「スポンサープログラム及び賛助制度(案)」「会員に関する規程(案)」に関する決議のほか、テーマ群ごとの進捗報告・質疑応答を予定しています

#	時間配分	累計時間	発表者		議題
大会・広報	5分	120分	テーマ9	池田(純)主査	・ 大会レギュレーションの整備(案)
	5分	125分	テーマ13	尾崎主査	・ 広報戦略の策定・展開(案)
	10分	135分	質疑応答(主査)		
指導者	5分	140分	テーマ1	伊坂主査	・ 入学前からの動機付け(案)
	5分	145分	テーマ4	藤本主査	・ キャリア支援(案)
	5分	150分	テーマ8	佐藤主査	・ 指導者向け研修(案)
	20分	170分	質疑応答(前半10分:主査、後半10分:作業部会員)		
	10分	180分	休憩		
情報の取扱い	5分	185分	テーマ11	小林(至)主査	・ シェアードサービスの概要(案)
	5分	190分	テーマ10	境田主査	・ 個別データの管理・活用方針(案)
	5分	195分	テーマ5	太田主査代理	・ 事故情報の集約化(案)
	10分	205分	質疑応答(主査)		
	15分	220分	会議全体を通じた質疑応答(主査・作業部会員)		
	5分	225分	その他		
	5分	230分	スポーツ庁	事務局	・ 事務連絡

議事(1)

スポンサープログラム及び賛助制度  
(案)

---

仙台大学 体育学部 教授  
池田 敦司 氏

## テーマ

## 【事業・マーケティング】 スポンサープログラム及び賛助制度の策定

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 第3回作業部会での討議を踏まえ、弾力性と冗長性のあるスポンサー制度として各項目を検討。
  - ・制度はあくまでも基本形のプロトタイプであり、クライアントの需要に即した対応を可能とする。
  - ・金額設定については、新組織全体の収支目標を踏まえた金額設定とする。
- ② クライアントとの商談の進行に応じた提供プロパティや金額の変更に関しては迅速な意思決定が必要な場合を想定して「事業マーケティング主査会」に権限を一任して推進、契約の締結に関しては機関決定を行う。

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① セールス推進における人的リソースの確保
- ② 組織概要とスポンサー制度発表をうけたスポンサー企業説明会の開催(11月中旬予定)

## 他テーマへの申し送り事項

- ① クライアントからの要望によっては各作業部会にて検討している領域や仕組みに大きく関連する事項の場合も想定できますので、案件発生次第相談いたします。
- ② 来年度リリースする制度・サービスの特定化を進めていただきたい。

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① スポンサーセールスの進捗
- ② スポンサー企業説明会実施概要

## 議事(2)

# 日本版NCAA(仮称)の会員に関する規程(案)

---

スポーツ庁 参与  
木藤 友規

## 議事(3)

# 日本版NCAA(仮称)への加盟に伴う 将来要求事項(案)

---

スポーツ庁 参与  
木藤 友規

議事(4)

テーマ群別の検討の進捗状況

---

テーマ12

# 大学SA支援、マーケティング・会計 ルールに関するガイドライン整備

---

日本体育大学 スポーツアドミニストレーター

佐野 昌行 氏

## テーマ

## 【事業・マーケティング】 大学SA支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① AD局の役割についての手引書(大学スポーツ振興のための学内整備手引書)の目次について検討した
- ② 手引書の項目の一部の執筆担当を他作業部会主査に依頼した(10/19締切(仮))
- ③ 手引書の項目のうち、テーマ12担当箇所を執筆した
- ④ 手引書に含む事例作成のため、スポーツ庁事業の委託先大学にアンケートを送付した(10/19締切)
- ⑤ 手引書に含む事例作成のため、海外事例の調査結果をまとめた

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 手引書を活用し、各大学におけるAD局の設置状況について点検・支援していく体制が求められるのではないか。整備された大学に対しインセンティブを与えることも考えられるのでは(表彰など)
- ② NCAAもしくは地域ブロック部会と各大学AD局との関係について検討・整理する必要があるのではないか

## 他テーマへの申し送り事項

- ① 引き続き、手引書の執筆についてご協力をお願いいたします  
→各テーマ内で整理・検討された事項をまとめていただくようなイメージです  
→もしもお近くの大学における先進的な事例があれば、ご記載いただけますと幸いです  
→特に加盟要件に係る内容は重要事項となりますので、速やかに作成いただきたいと存じます

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 手引書の初稿  
→各作業部会からの原稿をとりまとめる  
→委託先大学へのアンケート結果を「先行事例」として手引書に反映させる  
→用語や文体等をそろえる

テーマ2

学習機会確保(案)

---

全国大学体育連合 専務理事

小林 勝法 氏

## テーマ

## 【学業充実】 学習機会確保

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 大会・試合日程調整のフローの検討
- ② 指導者セミナーの研修内容の検討  
部会⑧(指導者研修)と調整し、「指導者倫理(コーチング哲学)」と「学業の重要性」について、担当することになった。

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 学連および大学対象アンケートの集計が10月下旬になる。
- ② 大会・試合日程調整案には、アンケート結果を参考にして、事例を盛り込みたい。
- ③ 「欠席配慮願い」が誤解を生みやすいので、修正する必要がある。

## 他テーマへの申し送り事項

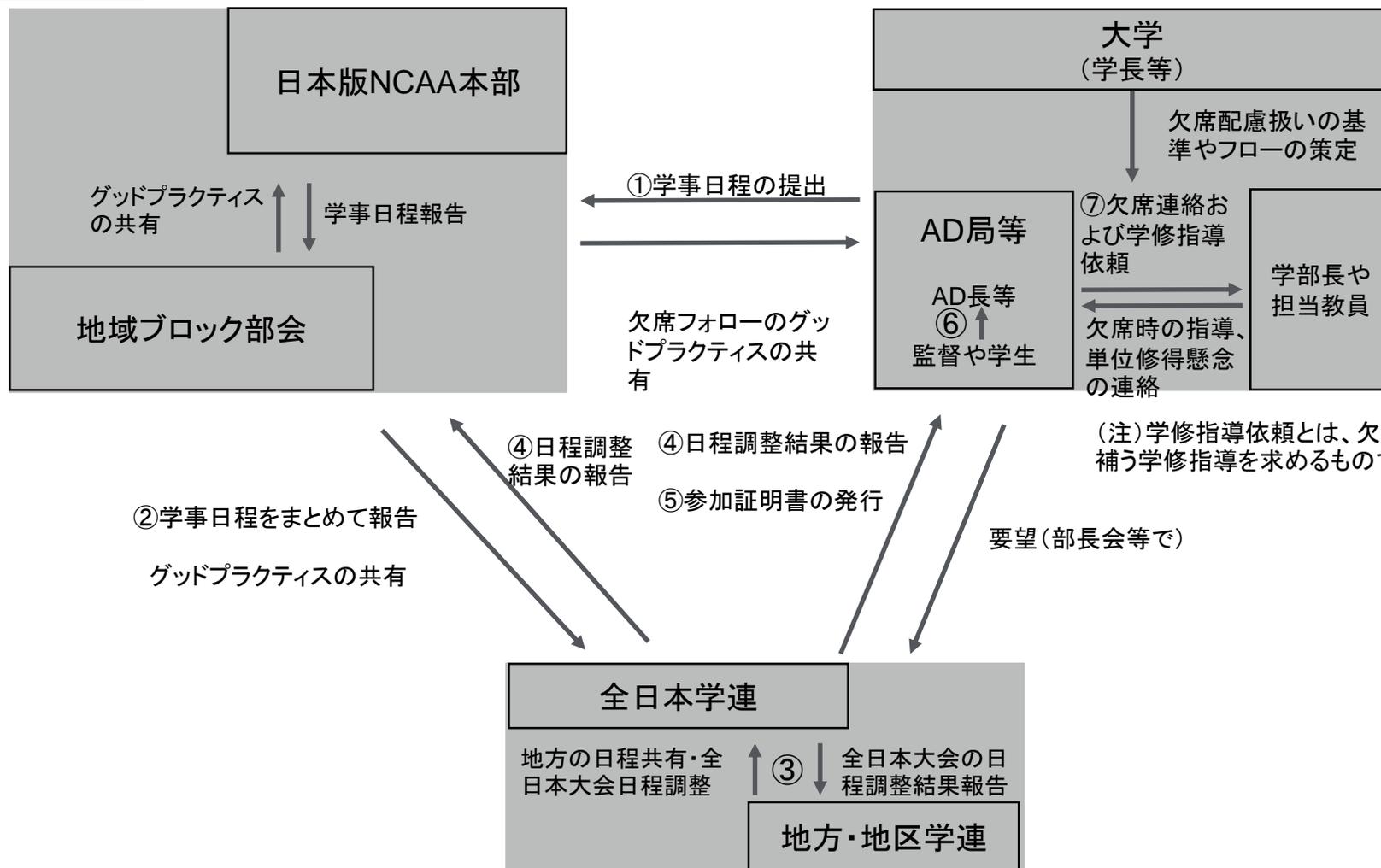
- ① 学連および大学対象アンケート調査の集計が10月下旬となる。
- ② 学連の代表を集めて、検討会を開催したい。(調査結果を踏まえて)

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 学連および大学対象アンケート結果の速報
- ② 試合日程調整案
- ③ 指導者セミナー案(内容、方法等)

## テーマ 【学業充実】 学習機会確保A 日程調整

### 添付資料



## テーマ

## 【学業充実】 学習機会確保B 指導者セミナー

## 添付資料

## 指導者セミナー案

1. 指導者倫理(コーチング哲学)(90分)
  - ①責任と危機管理  
事例(事故や暴力)、学生指導(危険防止教育)  
(アンガーマネジメント?)
  - ②コーチング哲学・信念  
グッドコーチに向けた「7つの提言」  
(誓約書に署名してもらう?)
  - ③フェアプレイ宣言(JSPO)  
署名を勧める。  
学生にも勧めてもらう。
  
2. 学業の重要性(90分)
  - ①単位制度の厳格化  
授業時間数確保(補講、予復習)  
欠席時の学修指導の必要性
  - ②デュアルキャリア  
JSC「スポーツキャリア総合ポータル」
  - ③人間教育・スポーツマンシップ教育

## テーマ

## 【学業充実】 学習機会確保B 指導者セミナー

## 添付資料

## グッドコーチに向けた「7つの提言」(文部科学省コーチング推進コンソーシアム2015年)

スポーツに関わる全ての人々が、「7つの提言」を参考にし、新しい時代にふさわしい、正しいコーチングを実現することを期待します。

**1 暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう。**

暴力やハラスメントを行使するコーチングからは、グッドプレイヤーは決して生まれたいことを深く自覚するとともに、コーチング技術やスポーツ医・科学に立脚したスポーツ指導を実践することを決意し、スポーツの現場における暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くすことが必要です。

**2 自らの「人間力」を高めましょう。**

コーチングが社会的活動であることを常に自覚し、自己をコントロールしながらプレイヤーの成長をサポートするため、グッドコーチに求められるリーダーシップ、コミュニケーションスキル、論理的思考力、規範意識、忍耐力、克己心等の「人間力」を高めることが必要です。

**3 常に学び続けましょう。**

自らの経験だけに基いたコーチングから脱却し、国内外のスポーツを取り巻く環境に対応した効果的なコーチングを実践するため、最新の指導内容や指導法の習得に努め、競技横断的な知識・技能や、例えば、国際コーチング・エクセレンス評議会(ICCE)等におけるコーチングの国際的な情報を収集し、常に学び続けることが必要です。

**4 プレーヤーのことを最優先に考えましょう。**

プレーヤーの人格及びニーズや資質を尊重し、相互の信頼関係を築き、常に効果的なコミュニケーションにより、スポーツの価値や目的、トレーニング効果等についての共通認識の下、公平なコーチングを行うことが必要です。

**5 自立したプレーヤーを育てましょう。**

スポーツは、プレーヤーが年齢、性別、障害の有無に関わらず、その適性及び健康状態に応じて、安全に自主的かつ自律的に実践するものであることを自覚し、自ら考え、自ら工夫する、自立したプレーヤーとして育成することが必要です。

**6 社会に開かれたコーチングに努めましょう。**

コーチング環境を改善・充実するため、プレーヤーを取り巻くコーチ、家族、マネージャー、トレーナー、医師、教員等の様々な関係者(アントラージュ)と課題を共有し、社会に開かれたコーチングを行うことが必要です。

**7 コーチの社会的信頼を高めましょう。**

新しい時代にふさわしい、正しいコーチングを実践することを通して、スポーツそのものの価値やインテグリティ(高潔性)を高めるとともに、スポーツを通じて社会に貢献する人材を継続して育成・輩出することにより、コーチの社会的な信頼を高めることが必要です。

## テーマ

## 【学業充実】 学習機会確保B 指導者セミナー

## 添付資料

## フェアプレイ宣言(日本スポーツ協会)



## テーマ

## 【学業充実】 学習機会確保B 指導者セミナー

## 添付資料

フェアプレイ  
7カ条

1. 約束を守ろう
2. 感謝しよう
3. 全力をつくそう
4. 挑戦しよう
5. 仲間を信じよう
6. 思いやりを持とう
7. たのしもう

## フェアプレイ宣言

私は、スポーツを愛する者として、  
何ごとにも全力で取り組み、  
精神・肉体ともに成長させることに努めます。

そして、フェアプレイを通じて  
思いやり、誇り、努力、勇気を  
最大限に発揮し、その力を人に、地域に、  
社会のために生かしていきます。

そのための具体的な行動として、  
「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」を  
実践していくことを宣言します。

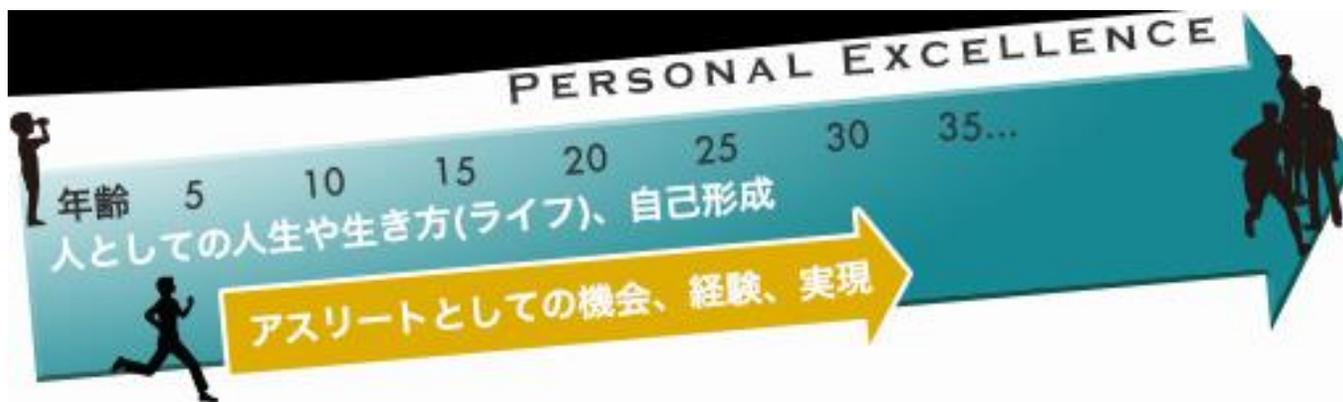
宣言ナンバー：185653  
小林 勝法

## テーマ

【学業充実】 学習機会確保B 指導者セミナー

## 添付資料

日本スポーツ振興センター「スポーツキャリア総合ポータル」  
 アスリートキャリア形成支援の4つの柱  
 「パフォーマンス向上」「教育」「社会性発達」「自己開発」



### コンセプトビデオ



テーマ3

成績管理・対策、さらなる動機付け  
(案)

---

早稲田大学 スポーツ科学学術院  
友添 秀則 氏

## テーマ

## 【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 学業基準の制度設計の詳細の検討。具体的には、各年次に求められる必要最低単位基準案の策定と次年度からどのように運用するかを討議。結果、次年度からは実証事業として大学・学連の協力を募り、実際に運用した場合の結果を基にして正式な基準案とフローを決める方針案に至る。
- ② 表彰制度について、表彰時期・内容・大卒の表彰方法を討議。結果、(i) 競技成績のみでの表彰(①の基準を満たしている前提) (ii) 競技成績に加えて、学業成績も加味した表彰の大きな2枠の基準案や時期、方法案を策定した

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 次年度行う実証事業の内容や方法。また、基準順守という義務に与える権利の整理。
- ② 表彰をする際の審査員や情報のフロー、具体的な表彰の内容を整理する必要がある。

## 他テーマへの申し送り事項

- ① 【全体】次年度から制度執行ではなく猶予期間を持たせる事への意見。
- ② 【事業・マーケ】SAIに求める業務機能との整合。
- ③ 【事業・マーケ】(大会レギュレーションの整備) 奨学金・表彰制度とスポンサーのあり方の検討の要。

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 学業基準案及び次年度実証事業の概況ラフスケッチの報告。
- ② 表彰制度についての制度設計図のラフスケッチの報告。
- ③ 成績管理と表彰制度該当部分のアンケート結果速報。

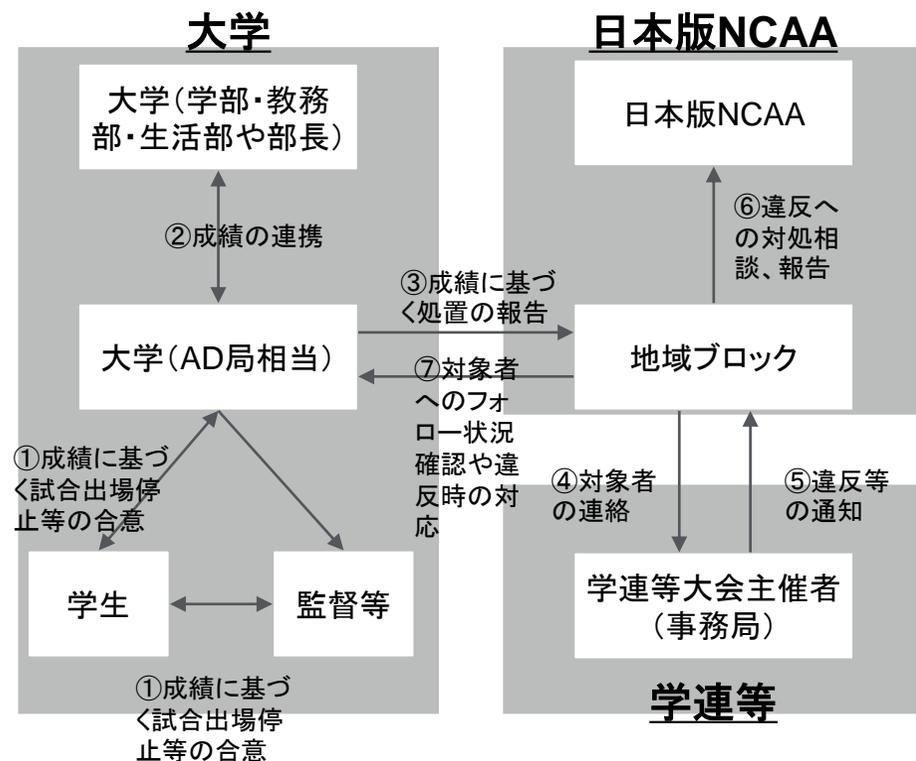
## テーマ

## 【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

## 添付資料

### 学業基準(成績管理・対策)

#### 学業基準管理フロー案(相関図)



#### ステークホルダーの役割案

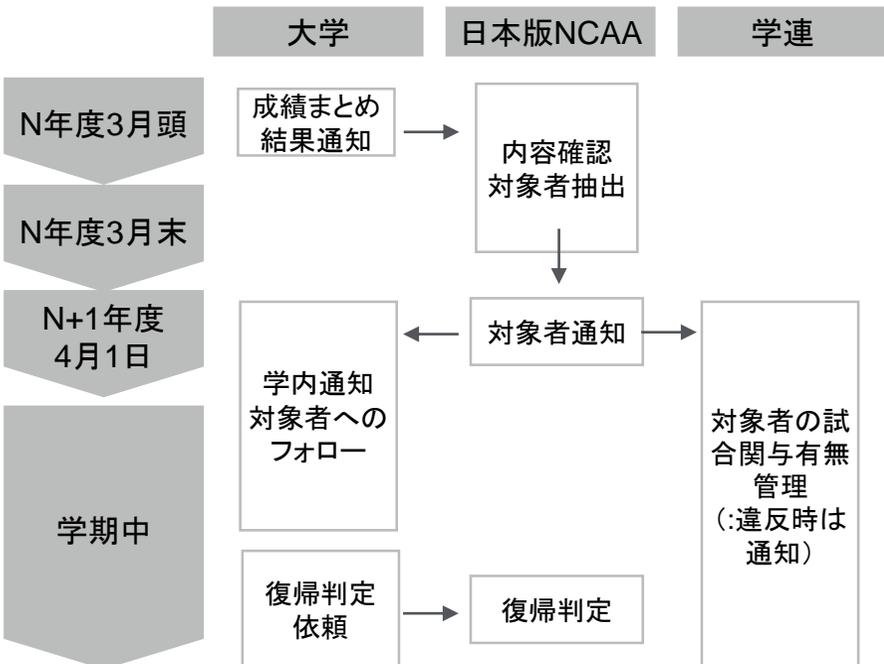
日本版NCAA	大会参加対象アスリートの情報管理、違反時の対応判断、違反行為有無の抜き打ち管理、成績不振者復帰判定の管理・仲裁
地域ブロック	各大会スケジュールの把握並びに成績管理との突合、試合不参加対象者に関する情報連携(大学・学連)、成績不振者への学業フォロー内容を確認(大学)
大学(学部・教務部・生活部や部長)	大学毎の成績管理及び内容をAD局へ通知
大学(AD局相当)	大会登録に間に合うように成績管理及び内容を地域ブロックへ通知、成績不振者へのフォロー内容の策定及び監督等との連携、学生への通知
学生・監督	大学や学連、日本版NCAAの決定に基づく制約の遵守
学連	対象者の管理、不正発覚時の扱いの策定(大会)、不正発覚時の通知(日本版NCAA)

## テーマ 【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

### 添付資料

#### 学業基準(成績管理・対策)

##### 学業基準管理フロー案(年次表)



※年度初めに該当者を抽出し関係者へ通知するフローを検討中

##### 成績基準案

	基準	勧告範囲	出場停止
2年開始時	25単位	~20単位	19単位以下
3年開始時	60単位	~50単位	49単位以下
4年開始時	90単位	~80単位	79単位以下

**勧告範囲** 試合出場とは可能。但しAD局は対象者にどのようなフォローをするかの計画とその結果報告を義務付ける

**出場停止** 対象者は対外試合への出場不可能。復帰のためには勧告同様計画と報告義務に加えて、改善されたと証明できる成績書の提示を義務付ける

※何らかの事情で特例措置が認められた場合(怪我や留学など)は5年次基準を適用することを検討

##### 復帰の規程案

※基本的に上記義務を満たしており、日本版NCAA並びに加盟大学からの了承が得られた場合はどのタイミングでも復帰可能とする

## テーマ

## 【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

## 添付資料

## 学業基準(成績管理・対策)

## 制度執行のタイミング案

## 浮上している論点(全体で要整合)

- 次年度から制度を執行するのは、運用上困難であるため、次年度～2, 3年は「実証事業期間」と定めて、仮案で設定した基準で運用した場合、どの程度対象者が発生するのかまた、成績基準を管理するフローは機能するかの検証を行いたい
- 精緻な実証事業を行う上でも、協力いただける学連(どの大会で?いつまでに成績要件が無いと判断できないか?誰が管理する?)と大学(情報管理の観点・内部フローは機能するか?大学毎に定めている基準との整合はできているか?)を募る必要がある
- 大学が「部活」と認定しているすべてを基準の対象とするべきか
- それとも強化指定部活など限定すべきか
- 管理対象とする大会はどの範囲か

## テーマ

## 【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

## 添付資料

## 表彰制度(さらなる動機づけ)

## 表彰制度の大方針

- 日本版NCAAの成績基準を満たし競技を行い、その上で「優れた競技成績」を納めているチームや個人について表彰する
- 加えて、その上で「優れた学業成績」を納めているチームや個人についても表彰する方針としたい

NCAAアスリート賞

NCAAスカラアスリート賞

## 表彰の対象とする大会等の相関図(案) NCAAアスリート賞

	表彰主体者	優勝等	ベスト8以上	
世界大会相当	日本版NCAA	最優秀賞	優秀賞	日本版NCAA本体が年に一度表彰を行う(*対象大会やチーム数等は要精査)
全国大会相当	日本版NCAA	最優秀賞	優秀賞	
地区大会相当	日本版NCAA 地区ブロック	優良賞	-	学連と連携し地区や大会ごとに表彰(*負担は日本版NCAA)

## テーマ

## 【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

## 添付資料

## 表彰制度(さらなる動機づけ)

## 表彰の対象とする大会等の相関図(案) NCAAスカラーアスリート賞

	表彰主体者	優勝等	ベスト8以上	× 各大学の成績上位者 (*GPA〇〇以上かつ所属学部等の成績が上位10%としてノミネート基準を設定)
世界大会相当	日本版NCAA	最優秀賞	優秀賞	
全国大会相当	日本版NCAA	優良賞	-	

## 表彰タイミング案

- 毎年3月上旬までに各大学の成績と大会の成績を総合して3月下旬には表彰する

## 論点

- 表彰対象者が現実的な数になるか、また対象大会をどの範囲までに設定するか
- 表彰タイミングを一律にすることは現実的か、また表彰の原資をどのように募るか
- 団体競技の扱いやベンチ内外等対象範囲の設定をどうするか

テーマ6

## 共通ルールの設定(案)

---

全日本学生柔道連盟 理事  
三宅 仁 氏

## テーマ

## 【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

## 1. 安全・安心に関するガイドライン

- ①担当部門の調査報告及び意見交換(頭部・頸部損傷、心疾患、熱中症、各競技団体ガイドライン調査)
- ②NCAAの安全安心ガイドラインを参考にその項目についての内容確認と必要性の検討。担当項目の明確化。
- ③デスクトップ調査による各競技団体におけるガイドラインの調査とその内容確認。
- ④頭部・頸部損傷、心疾患・熱中症における既存のガイドブックの活用。

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

1. NCAAの安全安心ガイドラインにおける「大学の責任」についての項目の必要性について。
2. 安全安心ガイドラインの成果物の作成方法について。

## 他テーマへの申し送り事項

- ① <事故データ集約> 事故データ収集方法に関する方針の確認(テーマ5)

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 安全・安心に関するガイドライン素案作成の進捗状況及び記載予定内容の報告。

テーマ7

ガバナンスの体制構築、ハラスメント  
や暴力等に関する相談・対応体制  
の構築(案)

---

日本安全教育学会 理事

戸田 芳雄 氏

## テーマ

## 【安全安心・医科学】ガバナンス体制の構築、ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ①スポーツ機関、大学の相談窓口の対象者、対象事案、実績等に関するヒアリング調査結果等を元に、日本版NCAAにおける相談窓口の基本となるコンセプトについて検討した。
- ②大学、NF、学連等のコンプライアンスに関するガイドライン・規程等のヒアリング調査等を行ない、ガイドライン作成の基本となる指針のコンセプトについて検討した。

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

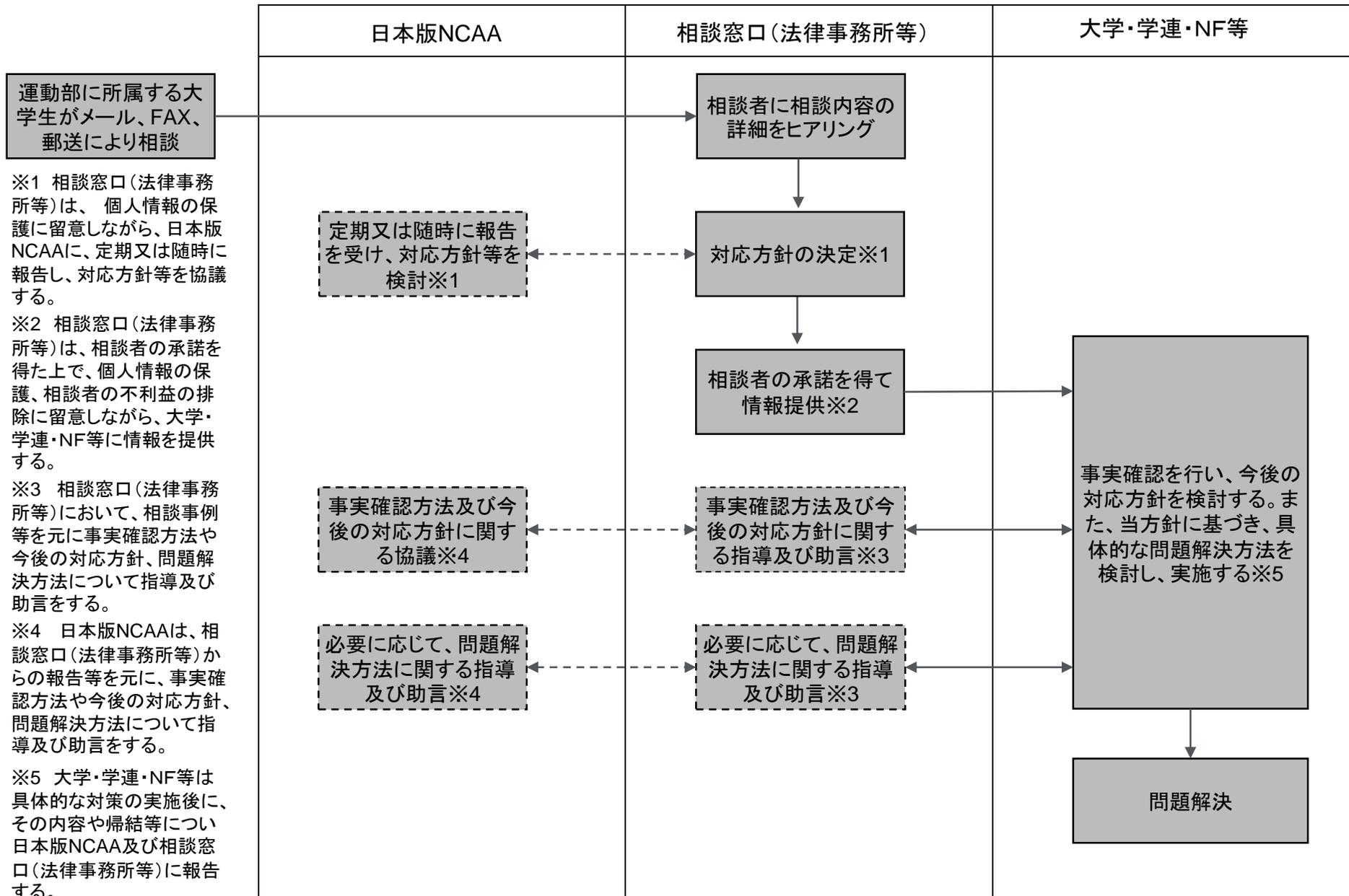
- ① 当事者以外の第三者(日本版NCAA)が相談窓口を設置することにより、学生が相談しやすくなると考えられ、問題を早期に発見し、適時に大学等への情報提供が可能となるため、問題解決が速やかになるのではないかと。
- ② 問題を具体的に解決するのは各大学・学連等であるため、日本版NCAAとの具体的な連携方法を検討する必要がある。
- ③ 問題解決にあたっては、専門家の知識が必要であるため、法律事務所等に委託する必要がある。それに伴い発生する経費を具体的に検討する必要がある。

## 他テーマへの申し送り事項

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ①日本版NCAAの相談窓口に関する規程案や概算した経費の金額。
  - ②コンプライアンス等に関するガイドラインの素案。
- \* ①②共に、テーマ7チームの検討を経て第6回作業部会(11/5)に提案予定。

# 相談窓口フローチャート図



※1 相談窓口(法律事務所等)は、個人情報の保護に留意しながら、日本版NCAAに、定期又は随時に報告し、対応方針等を協議する。

※2 相談窓口(法律事務所等)は、相談者の承諾を得た上で、個人情報の保護、相談者の不利益の排除に留意しながら、大学・学連・NF等に情報を提供する。

※3 相談窓口(法律事務所等)において、相談事例等を元に事実確認方法や今後の対応方針、問題解決方法について指導及び助言をする。

※4 日本版NCAAは、相談窓口(法律事務所等)からの報告等を元に、事実確認方法や今後の対応方針、問題解決方法について指導及び助言をする。

※5 大学・学連・NF等は具体的な対策の実施後に、その内容や帰結等について日本版NCAA及び相談窓口(法律事務所等)に報告する。

テーマ9

# 大会レギュレーションの整備(案)

---

スポーツ庁 参与

池田 純

## テーマ

## 【事業・マーケティング】 大会レギュレーションの整備

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① **表彰制度**に関して、各テーマからの協力もいただきながら、具体的な表彰項目案の検討を行った
- ② **競技横断的大学対抗戦**(既存の大会を前提としたポイント制)に関して、具体的なレギュレーションの検討を行った

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 表彰制度の実効性を担保するためには、学生・大学・競技団体等にとってのインセンティブをあわせて検討していく必要がある。そのためにはスポンサーの獲得もあわせて考えていく必要がある
- ② 競技横断的大学対抗戦がより学生他関係者から認知、注目され、盛り上がるようになるための仕掛けを整備していく必要がある

## 他テーマへの申し送り事項

- 表彰制度に関して、テーマ3(成績管理・対策、さらなる動機付け)で検討している学業関連の表彰制度案との連携
- 表彰のインセンティブに関して、テーマ14(スポンサー)との連携

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- 次回は、第6回作業部会(11/5)にて報告予定
- 表彰制度、競技横断的大学対抗戦(既存の大会を前提としたポイント制)に関して、第3回設立準備委員会で付議する素案の提示

テーマ13

広報戦略の策定・展開(案)

---

桜美林大学 スポーツ推進センター部長  
尾崎 幹男 氏

## テーマ

## 【事業・マーケティング】 広報戦略の策定・展開

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 公式ホームページ製作者選定  
公募期間:8/14~9/7 → 技術審査委員会を経て正式決定した。  
(株)運動通信社(ブランド名「スポーツブル」)
- ② 各作業部会の進捗一覧表作成  
プロジェクト全体の進捗を把握し、タイムリーな広報活動を実施する広報計画作成に活用する。
- ③ 第2回設立準備委員会(10/22)後の広報  
スポーツ庁ドメイン内にて「新規法人名称・概要・設立時会員募集予定等」を告知する。

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① スポーツ庁ドメイン告知から新・公式サイトへのスムーズな移行。
- ② スポーツブル現有サイトの活用法。
- ③ Line、Twitter、Facebook、YouTube、InstagramなどSNSの効果的活用法。

## 他テーマへの申し送り事項

- ① 各テーマごとに対外的に情報発信すべき内容を検討し、優先順位付けをしてください。
- ② スポンサープログラム作業部会およびシェアードサービス作業部会との緊密な連携が必要。

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 公式ホームページの構成・デザイン素案など。
- ② ロゴマークの公募要領。
- ③ 新規法人設立前後のシンポジウム／キャンペーン企画案。

テーマ1

入学前からの動機付け(案)

---

立命館大学 スポーツ健康科学部 学部長  
伊坂 忠夫 氏

## テーマ

## 【学業充実】 入学前からの動機付け

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 入学前教育の目的と到達目標の検討。
- ② 入学前教育に必要とされる項目の抽出と段階の設定。
- ③ 入学前教育の実施モデルの検討。

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 入学前教育の段階別名称が課題(現時点では仮名称)。
- ② 入学前教育の各項目概要の必要性。

## 他テーマへの申し送り事項

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 入学前教育の段階別項目の決定。
- ② 入学前教育の各項目の概要の決定。

# テーマ4 キャリア支援(案)

---

大阪体育大学 体育学部 教授  
藤本 淳也 氏

## テーマ

## 【学業充実】 キャリア支援

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① キャリア支援に関して既存団体がまとめた資料の共有を行った。
- ② 「全国体育スポーツ系大学就職担当者連絡協議会(29大学)」のアンケート集計結果を共有した。
- ③ 「成果物(案)」にまとめる短期的目標、中・長期的目標の大枠について確認した。
- ④ 「成果物(案)」の中・長期的目標の原案について議論した。
- ⑤ 「成果物(案)」の中・長期的目標の議論結果をもとに、第4回作業部会で報告 & 意見聴取する資料の作成を行った。

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 学生所属が「体育・スポーツ系学部」と「その他の学部」では、区別して検討すべき。
- ② 学生アスリートと一般学生の比率など、状況が大学によって異なることを考慮しながら検討すべき。
- ③ 既に学生アスリートキャリア支援として機能している民間企業とのタイアップが必要。
- ④ 就活やインターンシップの活動への監督・コーチへの理解促進の仕組みの検討が必要。
- ⑤ AD、キャリア支援部、指導者・コーチ、学生アスリートを結び付ける仕組みづくり支援が必要。
- ⑥ 学業充実部会の全体構想の中でデュアルキャリア支援システムの検討が必要。

## 他テーマへの申し送り事項

- ① 今後も、「入学前からの動機づけ」「学業基準の設定・さらなる動機付け」「指導者セミナー」の部会と情報共有が必要

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① この時点で確認された課題
- ② 短期的、中・長期的キャリア支援プログラム案
- ③ 次回会議へ向けての議論のポイント

テーマ8

## 指導者研修(案)

---

筑波大学 アスレチックデパートメント  
スポーツ・アドミニストレーター

佐藤 壮二郎 氏

## テーマ

## 【安全安心・医科学】 指導者研修

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① NCAAに加盟するのは「大学」であり「部」ではない。  
→研修・講習は「加盟大学のスポーツの窓口となるSA(およびそれに準じる方)」が受け、それを学内および学内の指導者に展開していく形とする。
- ② 現在は指導者の意識向上を行う根幹である、大学のガバナンスがあまりにもバラバラである。  
→指導における問題の根幹は大学が十分に指導者および部の状況を把握しておらず、マネジメントが連携できていないことによって多くの問題が起きている。よって、まず初期は「指導者の意識向上」という目的に対し、「チェックリストで大学のガバナンス、コンプライアンス、そして安全対策に対する課題と不足を知り」→「その課題に対して各大学が行っている取り組みや実践例を学び合う」場として研修会を展開する。→各大学に持ち帰りガバナンスや指導に対する自浄作用と意識向上を高めていく。

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 大学の意志とガバナンスが無ければならない＝テーマ⑫との連携が重要

## 他テーマへの申し送り事項

- ① チェックリストや発表で加盟大学の優良な取り組みが見えていく＝テーマ⑨の表彰との連携へ(表彰がモチベーションとなり、健全化に向けたより素晴らしい活動が生まれ、またそれを研修会で他大学が学び合う好循環をつくる。)

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 現在本テーマのグループで筑波大学の「ガバナンス」「コンプライアンス」「安全対策」チェックリストを共有し、これを土台に項目を洗い出している。
- ② 全ての加盟大学のSAが課題や取り組みを共有できるよう、全7会場等で開催、動画等で共有し、年1回SAの総会型の研修会も開くことを協議開始した。

テーマ11

# シェアードサービスの概要(案)

---

江戸川大学 社会学部経営社会学科 教授  
小林 至 氏

## テーマ

## 【事業・マーケティング】 シェアードサービスの提供

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 映像配信事業・HP製作の開設準備を委託する業者の選定
- ② 「事業マーケティング」の他のテーマとシェアードサービスの連携の必要性についての確認
- ③ 上記、映像配信事業を行う上で、既存の各学連の映像配信に関する取り組みの調査
- ④ 来春の映像配信開始に向けたスケジュールの策定及び、テスト配信の検討

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 映像配信事業者との綿密な計画づくり 各学連との正式な映像配信に関する調整(権利処理の方法について: 配信料購入型、共同事業型、配信協力型など)が必要であることを確認
- ② 映像配信を行うコストの算出と捻出についての考え方の整理が必要

## 他テーマへの申し送り事項

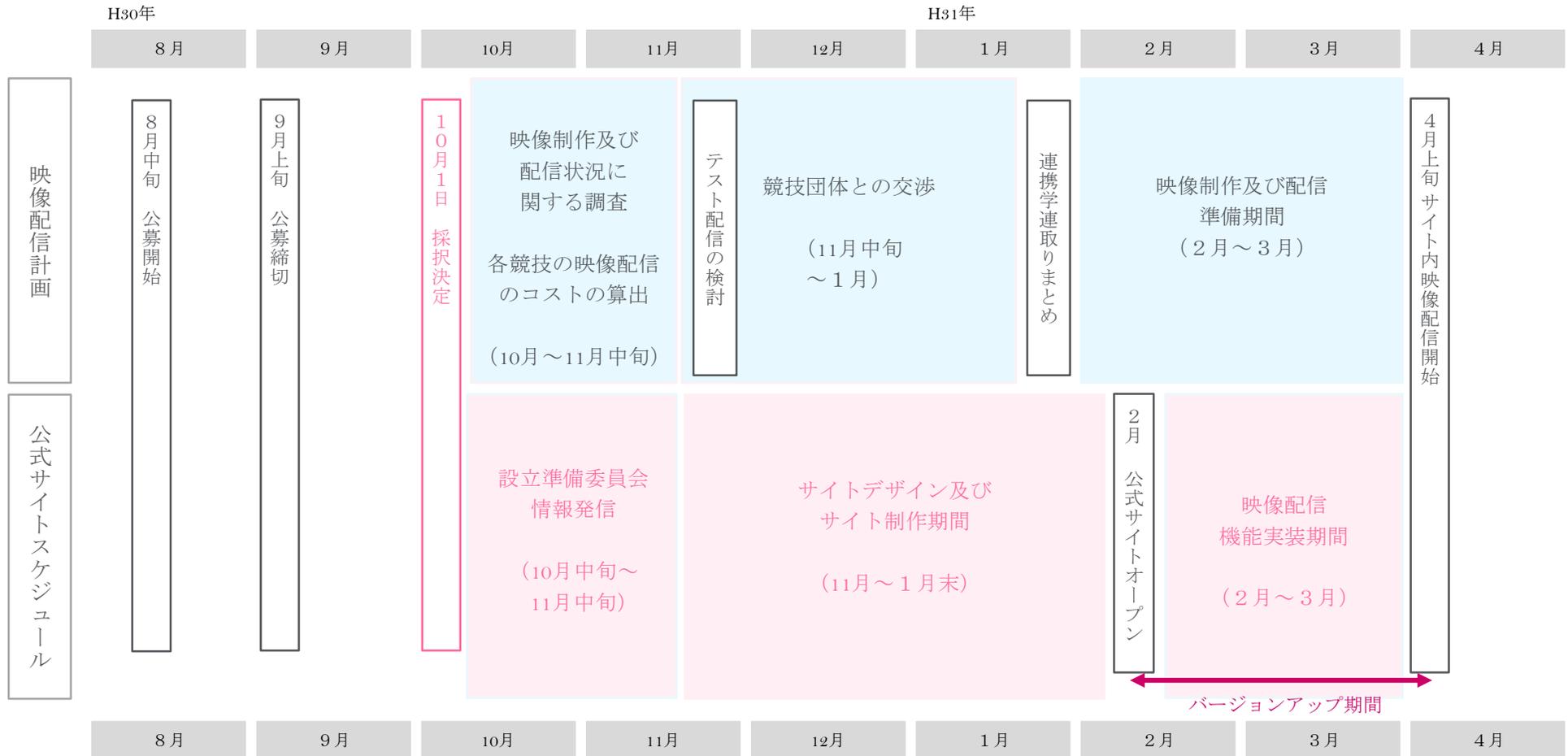
- ① 「事業・マーケティング」に限らず、対内、対外ともに、多くのサービスが、シェアード・サービス(サイバー空間)を介して行うことが出来ることと、利用者にとって、サイバー空間を活用することで、利便性の向上および費用削減に寄与することが出来ることについて、確認をしたい。

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① シェアードサービスの核となる映像配信事業に関するサービスの概要とメリットについて報告する。
- ② 可能であれば、どのような競技、大会の映像配信をしていくかの予定についても発表する。
- ③ サイト運営および配信に伴うコストの算出と、その費用の捻出についての考え方の整理。

# スケジュールについて

来春の映像配信開始に向けて、  
11月から各学連との交渉を開始。  
交渉に先立ち、テスト配信の実施も検討中。



# テスト配信について

今後、各学連と話を進めていく上で、  
指標となるテスト配信にしていく予定。  
以下の2つのパターンを検討中。

## 他の学連への指標ともなりえる競技

大学スポーツの中でも注目率が高く、他の学連へ対して指標となりやすい競技。

### 候補① 野球 明治神宮野球大会

<候補試合>

- ・日程：2018年11月8日～14日
- ・主催：明治神宮・（公財）日本学生野球協会
- ・場所：明治神宮野球場
- ・決勝：2018年11月14日（水）12時00分～
- ・既存配信：なし

### 候補② サッカー 全日本大学サッカー選手権大会

<候補試合>※昨年参考データ

- ・日程：2017年12月13日～24日
- ・主催：日本サッカー協会、全日本大学サッカー連盟
- ・場所：浦和駒場スタジアム
- ・決勝：2017年12月24日（日）11時55分～
- ・既存配信：ジェイネットTV

### 候補③ バスケ 全日本大学バスケットボール選手権大会

<候補試合>※昨年参考データ

- ・日程：（男）2017年11月20日～26日（女）11月28日～12月3日
- ・主催：日本バスケットボール協会、全日本大学バスケットボール連盟
- ・場所：（男）青山学院大学青山キャンパス（女）カメイアリーナ仙台
- ・決勝：（男）11月26日14時00分～（女）12月3日14時00分
- ・既存配信：J-SPORTS、ジェイネットTV

## ライブ配信の効果がわかりやすい競技

今まで、テレビ局などでの中継の機会は少ないため、ライブ配信の取り組みによる学生のモチベーション変化などが図りやすい競技。

### 候補① ラクロス 全日本ラクロス大学選手権

<候補試合>

- ・日程：2018年11月4日～25日
- ・主催：日本ラクロス協会
- ・場所：駒沢オリンピック公園 総合運動場 陸上競技場
- ・決勝：2018年11月25日（日）調整中
- ・既存配信：なし

### 候補② ハンドボール 全日本学生ハンドボール選手権大会

<候補試合>

- ・日程：2018年11月10日～14日
- ・主催：日本ハンドボール協会、全日本学生ハンドボール連盟
- ・場所：丸善インテックアリーナ大阪
- ・決勝：2018年11月14日（水）
- ・既存配信：ジェイネットTV

### 候補③ テニス 全日本学生室内テニス選手権大会

<候補試合>

- ・日程：2018年11月25日～12月2日
- ・主催：全日本学生テニス連盟
- ・場所：江坂テニスセンター
- ・決勝：2018年12月2日（日）
- ・既存配信：なし

テーマ10

# 個別データの管理・活用方針(案)

---

東京大学 理事  
境田 正樹 氏

## テーマ

## 【事業・マーケティング】 個別データの管理・活用

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① リサーチ体制検討部会の設置(京都大学:高瀬進/大阪大学:中田研、橋詰謙/東北大学:長神風二、荻島真一、永富良一/東京大学:境田正樹)
- ② データの種類や特性に応じた適切な取扱いと利用方法について
- ③ 機微性の高いデータ、要配慮個人情報などの取扱い

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① リサーチ・コーディネーションセンターの役割
- ② 大学AD内の研究支援センターの役割
- ③ 日本版NCAAに対し提出を義務付けるデータ(氏名、所属大学等)、任意に提出を求めるデータについて(バイタルデータ、体力測定データ等)

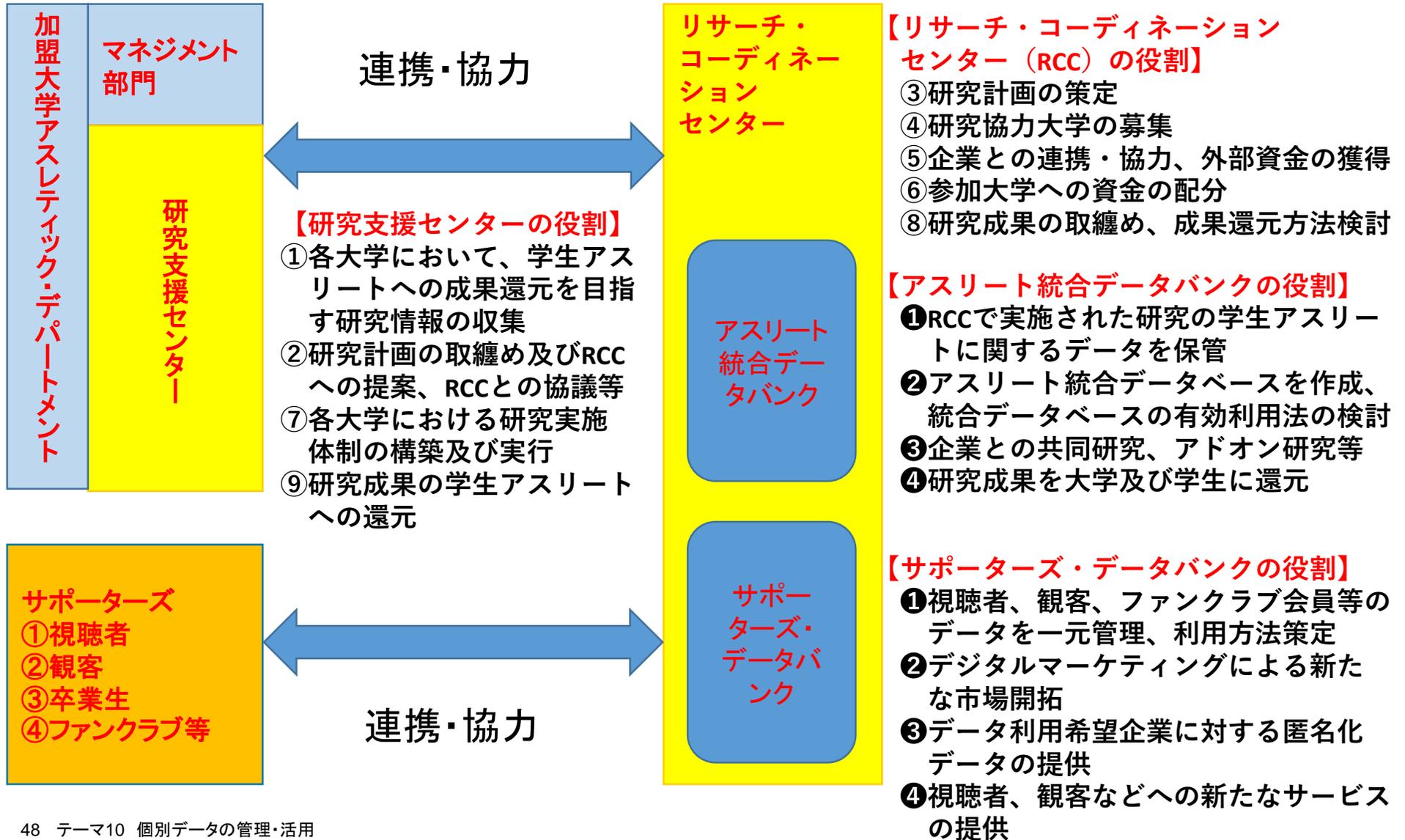
## 他テーマへの申し送り事項

- ① 「安全・安心・医科学 テーマ⑥安全に関するガイドライン」  
学生アスリートからスポーツ障害情報、バイタルデータ、体力測定データ等を取得し、研究を実施するための体制構築
- ② 「事業・マーケティング テーマ⑪シェアードサービスの提供、テーマ⑭スポンサープログラムの策定、賛助依頼」  
企業との新規商品、新規サービスの開発に向けての連携等

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① データの種類や特性に応じた適切な取り扱いとデータの利用方法について
- ② 大学AD内の研究支援センターの具体的な役割

# 日本版NCAA構想における個別データの管理・活用(案)



テーマ5

## 事故情報の集約化(案)

---

武蔵丘短期大学健康マネジメント専攻教授  
太田 あや子 氏

## テーマ

## 【安全安心・医科学】 事故情報の集約化

## 報告内容

## 今回の作業部会までに作業・検討した内容

## ① 事故情報の集約

基本的に保険のデータを活用することとし、保険から得られる情報を確認した。学連が事故情報を把握しているかを調査中。

## ② 保険

学連の保険加入状況を調査中。加入が勧められる保険を大学、学連、チーム(学生)、指導者別に整理し、加入促進策を検討する。新たな保険については、日本版NCAA設立後に検討する。

## 上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

① 事故情報の集約： 収集した事故情報を集計・分析して大学、学連にフィードバックする必要がある。個別の事故予防のためには大学、競技を越えた情報を収集する調査研究が必要であり、日本版NCAAが調査研究をコーディネートする必要がある。

## 他テーマへの申し送り事項

① 安全安心のガイドラインに大学、学連が事故情報を把握すべきこと、適切な保険に加入すべきことを盛り込む

## 次回の作業部会における報告事項(予定)

① 事故情報の集約： 学連の事故情報の把握状況

② 保険： 学連の保険加入状況。加入が勧められる大学、学連、チーム(学生)、指導者別の保険

今後のスケジュールについて

---

# 11月までの会議体スケジュールと主な議題(予定)

第2回準備委員会は、定款、組織図等の組織整備(案)とスポンサープログラム(案)が主な議題となります。第5、6回作業部会においては、各テーマより第3回準備委員会に付議する内容の確認を予定しています。

	第2回設立準備委員会	第5回作業部会	第6回作業部会	第3回設立準備委員会
日程	10月22日(月) 10:00～13:00 (約3時間)	10月25日(木) 10:00～13:30 (約3時間30分)	11月5日(月) 10:00～14:00 (約4時間)	11月19日(月) 10:00～13:00 (約3時間)
会場	文部科学省 旧庁舎6階第2講堂	デロイトセミナールーム (新東京ビル7階)	文部科学省 3階第1講堂	文部科学省 3階第1講堂
主な議題(予定)	<u>日本版NCAA(仮称)の 組織整備(案)①</u>	<b>第3回準備委員会の 付議内容確認</b> ① 入学前からの動機付け ② 学習機会確保 ⑥ 共通ルールの設定 ⑧ 指導者研修 ⑬ 広報戦略の策定・展開	<b>第3回準備委員会の 付議内容確認</b> ③ 成績管理・対策、さらなる動機付け ④ キャリア支援 ⑤ 事故情報の集約化 ⑦ ガバナンス体制 ⑨ 大会レギュレーション ⑩ 個別データの管理・活用 ⑪ シェアードサービス ⑫ 大学SA支援等ガイドライン	<u>日本版NCAA(仮称)の 組織整備(案)②</u>
	<u>スポンサープログラム(案)</u>			
	<u>作業部会各テーマの 進捗報告</u>			<u>作業部会各テーマの 素案 (テーマ①～⑬)</u>
	<u>日本版NCAA(仮称)の 会員募集の説明</u>	<b>組織設立の進捗及び今後の進め方</b>		